

5:1 アラムの王の軍の長ナアマンは、その主君に重んじられ、尊敬されていた。それは、【主】が以前に、彼を通してアラムに勝利を与えられたからであった。この人は勇士であったが、ツアラアトに冒されていた。

5:2 アラムはかつて略奪に出たとき、イスラエルの地から一人の若い娘を捕らえて来ていた。彼女はナアマンの妻に仕えていた。

5:3 彼女は女主人に言った。「もし、ご主人様がサマリアにいる預言者のところに行かれたら、きっと、その方がご主人様のツアラアトを治してくださるでしょう。」

5:4 そこで、ナアマンはその主君のところに行き、イスラエルの地から来た娘がこれこれのことを言いました、と告げた。

5:5 アラムの王は言った。「行って来なさい。私がイスラエルの王に宛てて手紙を送ろう。」そこで、ナアマンは、銀十タラントと金六千シェケルと晴れ着十着を持って出かけた。

5:6 彼はイスラエルの王宛ての次のような手紙を持って行った。「この手紙があなたに届きましたら、家臣のナアマンをあなたのところに送りましたので、彼のツアラアトを治してくださいますように。」

5:7 イスラエルの王はこの手紙を読むと、自分の衣を引き裂いて言った。「私は殺したり、生かしたりすることのできる神であろうか。この人はこの男を送って、ツアラアトを治せと言う。しかし、考えてみよ。彼は私に言いがかりをつけようとしているのだ。」

5:8 神の人エリシャは、イスラエルの王が衣を引き裂いたことを聞くと、王のもとに人を

遣わして言った。「あなたはどのように衣を引き裂いたりなさるのですか。その男を私のところによこしてください。そうすれば、彼はイスラエルに預言者がいることを知るでしょう。」

5:9 こうして、ナアマンは馬と戦車でやって来て、エリシャの家の入り口に立った。

5:10 エリシャは、彼に使者を遣わして言った。「ヨルダン川へ行って七回あなたの身を洗いなさい。そうすれば、あなたのからだは元どおりになって、きよくなります。」

5:11 しかしナアマンは激怒して去り、そして言った。「何ということだ。私は、彼がきっと出て来て立ち、彼の神、【主】の名を呼んで、この患部の上で手を動かし、ツアラアトに冒されたこの者を治してくれると思っていた。」

5:12 ダマスコの川、アマナやパルパルは、イスラエルのすべての川にまさっているのではないか。これらの川で身を洗って、私がきよくなれないというのか。」こうして、彼は憤って帰途についた。

5:13 そのとき、彼のしもべたちが近づいて彼に言った。「わが父よ。難しいことを、あの預言者があなたに命じたのでしたら、あなたはきっとそれをなさったのではありませんか。あの人は『身を洗ってきよくなさい』と言っただけではありませんか。」

5:14 そこで、ナアマンは下って行き、神の人が言ったとおりに、ヨルダン川に七回身を浸した。すると彼のからだは元どおりになって、幼子のからだのようになり、きよくなった。

ツアラアトとは以前はらい病（ハンセン病）と訳されていましたが、実際は病名を特定できないので、原語のまま表記されています。皮膚の疾患を伴うものであることは確かです。

ナアマンは地位も名声もある大將軍でしたが、見えないところは弱く病んでしまいました。これは人間の現実を表しています。一度は憤慨した彼も、へりくだって従ったときに主の恵は表れました。

それをもたらしたのは、奴隷のイスラエルの娘であったことを思うと、私たちもどんな立場でも、その人のために思いつつ伝道したいものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

